を横走し，再び上方に伸び，新しい幹となる（B）ものである。エダウチムニンヘゴでは（A）の枝と地向性を示し，あたかも幹が板根を具えるかのように不定根を密生する枝をだす。このような例はこれまで知られていない。さらに幹が二叉分枝をするように思われるが，外形上は上方に伸びる枝との区別がむずかしい。

エダウチムニンヘゴは，樹冠が露出する，葉面が光沢のない明るい緑色になる，最下羽片が縮まる，葉柄が短い，葉柄のとげが短い等の点でヘゴとは異なる。ルソン島の *Cyathea callosa* Christ. に近い形質もみられる。南硫黄島固有の独立種と結論し，*Cyathea Tuyamae* の学名を与えた。

□大阪大学附属図書館中之島分館：**自然科学系外国雑誌センター館現行受入雑誌目録** 278 pp. 1982. 昭和52年度から理工，医，農学の3領域で当時欠落していた資料を，外国雑誌センターを指定して収集と整備と情報の提供とをはじめた。それは東北大医学分館，東京大学農学部，東京工業大学，大阪大学中之島分館，九州大学医学分館，鹿児島大学の6ヶ所の図書館であった。昭和55年9月に自然科学系拠点図書館外国雑誌目録を出したが，それの改訂，補遺版でもある。はじめに記録の様式を述べ，それからABC順に雑誌名と所蔵機関を掲げているが，大体上記の6館の内の1館に限られ，細かい活字とびっしりつまった形態で，何しろ各頁に35項は乗っているので大体で一万に近い雑誌名がならんでいる。しかも古いもの，名の知れたものはほとんど載っていないからここ数年の新雑誌の数はおどろくべきものといえよう。生物学関係は主に鹿児島大学に集中しているように見うけた。　(前川文夫)

□井波一雄：**広島県植物図選Ⅱ** (Inami, K.: Illustrations of selected plants from Hiroshima Prefecture Ⅱ) 100 pls., +11 pp. 1982. 博新館，広島. ¥4,000. 前巻にひきつづいて，広島県産の特産種或は稀産種に重点をおき，井波氏が実物を相手に麗筆をふるったもので，前巻で多少目についた陰影をへらし，細部にはその機微を現わすのに骨を折ったものである。アキテンナンショウ，セトウチホトトギス，キミズモドキ，キビナワシロイチゴ，ビッチュウフウロ，クロタキカズラ，ナツアサドリ，ヤナギイボタ，テリハアザミ等は特産に近いものであるし，オゼコウホネ，クロヅル，デワノタツナミソウなどはおやと思われる種類で面白い。頁下に地形図索引番号や金井索引番号を附し，大井，寺崎，保育社等の頁数，それに短かいが重点をついた短文を載せていて参考になる。ただ31図のサンヨウアオイはやはりミヤコアオイであろうと考えられる。

(前川文夫)